

ソフトウェア・エンジニアリング講習セミナー

一流の国際的講師陣による本格的チュートリアル・セミナー

コンピュータ生産に占めるソフトウェアの総合コストは、次第に増大し、遂に 80% をこすに至った。しかるに、ソフトウェア生産は、現在でも個々のプログラマーの名人芸に依存することが少なくない。

ソフトウェア・エンジニアリングの目的は、機械化による自動作成の技術と、チームワークによる組み立ての生産の技術とを研究開発することにより、ソフトウェアの生産を現代の発達した工業生産の水準に近づけようとするものである。また、ソフトウェア・エンジニアリングは、同生産の現場で築きあげられて来た多岐にわたる諸技術に確固たる地盤をもち、同時に深い理論的な見とおしのもとに、普遍的統一的な技術体系として形成されつつあるものである。

わが国のコンピュータ産業は、世界第 2 位の地位もほぼ確定化し、今後の日本におけるソフトウェア開発の技術として、ソフトウェア・エンジニアリングの必要性は日ごとに増大しつつある。このような時期にあたり、本講習会は、このような意味での本格的ソフトウェア・エンジニアリングの国際的学問形成の中心となって活躍して来た R.T. Yeh, A.I. Wasserman および D.J. Reifer の 3 氏が、来る 4 月 26 日～28 日に東京（野口英世記念会館）で開催される IFIP Working Conference on Modelling of Environmental Systems に参加のため来日されるのを機に、下記の通り、プログラム、大規模データシステムおよび大規模ソフトウェアのスペシフィケーションについて国際的視野にたった講習・討論会を行うものである。

本講習会の定員は 80 名ですから、裏面の申込書により早目にお申込みください。

記

開催日 昭和 51 年 4 月 23 日(金), 24 日(土) 09:00～17:00

会場 機械振興会館 地下 3 階 研修 1 号室

使用テキスト 60～70 pp. (英文) (逐次通訳あり)

内容

◇ 51 年 4 月 23 日 (金)

<時間>

- | | |
|---|-------------|
| (1) Tutorial Introduction to Program Verification | 09:30～12:30 |
| Raymond T. Yeh (テキサス大学・電子計算機学科主任教授,
IEEE Trans. on Software Engineering 編集長) | |
| (2) Software Engineering Approach to Data-Base Design
and Its Application to Medical Information Systems | 13:20～16:30 |
| Anthony I. Wasserman (カリフォルニア大学・医学情報科学
学助教授) | |

◇ 51 年 4 月 24 日 (土)

- | | |
|---|-------------|
| (1) Software Specification Techniques | 09:30～12:30 |
| Donald J. Reifer (Aerospace Corp.) | |
| (2) Problems in Software Engineering—Levels of Machines and
Representation | 13:30～15:30 |
| T. Kunii (東京大学・情報科学科助教授) | |

参加申込みについて：定員 80 名，申込み締切りを51年4月10日（土）といたしますので，下記申込書によって，早目にお申込みください．受講料納入受付けをもって，申込み受付けとし，定員になり次第締切ります。

.....きりとり線.....

昭和 年 月 日

「ソフトウェア・エンジニアリング講習セミナー」申込書^(注1)

標記講習会を下記によって申込みます。（該当するものを○印でかこむ。）

(1) 受講料	正会員，賛助会員 ^(注2)	20,000 円
	学生会員	15,000 円
	非会員	25,000 円

払込額 _____ 円也

(2) 送金方法

- a. 現金書留（同封）
- b. 銀行振込（三菱銀行虎の門支店 情報処理学会講習会普通口座 No. 4225437）
（郵便振替は時間がかかりますから，受付けられません。）

(3) 申込者 氏名 _____ 会員 No. _____

連絡先 〒 _____

Tel. _____

(4) その他（連絡事項をご記入ください。）

- (注) 1. 申込書は一枚一人として下さい。（この用紙をコピーしたもので可）
2. 本学会賛助会員は一口一人として正会員に準じます。

研究会開催通知

(昭和51年3月26日～5月31日)

研究会名	日	時	会場	備考
システム性能評価	3月26日(金)	14:00～17:00	機械振興会館	下記参照
マン・マシン・システム	4月23日(金)	14:00～17:00	大阪大学	同上
計算機アーキテクチャ・マイクロコンピュータ	4月28日(水)	14:00～17:00	機械振興会館	次号参照
イメージ・プロセッシング	5月18日(火)	14:00～17:00	電総研	下記参照

◆第9回 システム性能評価研究会 (主査: 大野 豊, 代表幹事: 齊藤栴朗)

日時 3月26日(金) 午後2時～5時
会場 機械振興会館 地下3階1号室
 [東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄: 日比谷線神谷町駅・都営1号線大門駅・都営6号線御成門駅下車, 国電: 浜松町駅下車, バス: 新橋一汐谷線東京タワー・等々力一東京駅八重洲口線飯倉1丁目下車, Tel. (03) 434-8211]

議題 (1) システム・シミュレータ
 水谷浩二 (日本 IBM)
 [概要] コンピュータ・システムの性能評価法の中で, オペレーティング・システムを対象とした, シミュレータの手法について述べる.
 (2) 科学技術用計算機システムの性能評価法 齊藤栴朗 (電通大)
 [概要] 科学技術の分野における計算機システムの性能評価は, Instruction, Mix で論ぜられることが多いが本論では新しい評価法を提案する.

◆第13回 マン・マシン・システム研究会

(主査: 大須賀節雄, 代表幹事: 飯田善久)

日時 4月23日(金) 午後2時～5時
会場 大阪大学 基礎工学部情報工学科
 [大阪府豊中市待兼山町 1-1, 阪急: 宝塚線石橋駅下車 1.5km, タクシー: 前同蝸ヶ池駅より 2km, 大阪空港より 3km, 地下鉄御堂筋線千里中央駅より 4km, Tel. (06) 856-1151]

議題 (1) オンライン・シミュレータ GMSS
 久保正敏, 伊藤 潔, 田畑孝一, 大野 豊 (京大・工)
 [概要] オンライン・グラフィカルモデリングシミュレーション・システムの対話機能とシミュレータについて報告する.
 (2) 幾何モデルの生成と処理について
 木村文彦 (電総研), 穂坂 衛 (東大・宇宙研)
 [概要] 計算機を用いた物体形状の生成と処理について統一的な考察を加え, 主に平面と単純曲面から成る立体を取り扱うシステムを作成し

たので、いくつかの応用例と共に報告する。

(3) 形式的推論と質問応答システム

石堂伸夫, 小川 均, 北橋忠宏, 田中幸吉 (阪大)

〔概要〕 グラフを用いた形式的推論及び導出原理に対する改良型戦略として、開発した MOL 戦略を紹介し、質問応答システムにおける推論方式について考察する。

◆第6回 イメージ・プロセッシング研究会

(主査: 尾上守夫, 代表幹事: 長尾 真, 白井良明, 高木幹雄)

日 時 5月18日(火) 午後2時~5時

会 場 電子技術総合研究所 A会議室

(東京都千代田区永田町 2-6-1, 地下鉄: 丸ノ内線国会議事堂前駅下車(首相官邸側)・千代田線国会議事堂前駅下車(ヒルトンホテル側), 都バス溜池下車, Tel. (03) 581-0441)

議 題 (1) 画像処理実験システムと画像処理用多重プロセッサ・システムについて研究室紹介 棟上昭男, 内田俊一, 藤村是明 (電総研)

〔概要〕 画像処理実験用オンライン・システム, 特にその為に開発された対話型 OS と, その下で動作する主従の画像処理サブ・システム, 及び開発中の多重プロセッサ・システムについて報告する。

(2) 濃淡図形の線画化と局所並列処理の可能性について

藤村是明 (電総研)

〔概要〕 雑音レベルの変動を考慮した濃淡図形の輪郭の線画化を, 局所並列処理の組み合わせでおこなった結果について報告する。

(3) リモート・センシングにおける画像処理技術——陸象, 海象を例として 森 健一 (東芝・総研)

〔概要〕 陸象(農作物分類, 病虫害, 収量予測など)と海象(海水汚染, 透明度分布など)を例としてリモート・センシングにおける画像処理技術の問題点を検討した結果を報告する。

第18回プログラミング・シンポジウム予告

第18回プログラミング・シンポジウムは、1977年1月12(水)、13(木)、14日(金)の3日間、例年のとおり、箱根彫刻の森ホテルで開催することにきまりました。研究発表申し込みおよび要旨送付の締切りは、8月末日の予定です。また、参加希望の受付は、11月に改めてご案内する予定です。その他詳細については、下記プログラミング・シンポジウム委員会へご照会ください。

なお、次回も宿題研究テーマは設けない予定です。発表にあたっては自由に話題をお選びください。また、本シンポジウム委員会では、このシンポジウムの意義を下記のように考えておりますので、その趣旨に沿って、発表および参加の準備をされるようお願いいたします。

記

- (1) 研究者・学生・メーカー・ユーザーなどの人々の共通の討論の場である。
- (2) 学術論文の発表の場ではない。
- (3) 未完成なものであっても、プログラミングの将来に大きな影響を与えそうなホットな話題が歓迎される。
- (4) シンポジウムというものの本来の意味のとおり、積極的に質問を受け、また討論に参加する心構えが必要である。

職業的プログラマーの育成に関するシンポジウム予告

標記のシンポジウムを、きたる1976年7月中旬に開きます。話題は、大学における専門教育から企業における人事管理にいたるまで、広く“教育と人の問題”を取り上げます。なお、参加者には必ず発表していただくことになっております。詳細については下記プログラミング・シンポジウム委員会夏のシンポジウム係へお問い合わせください。



申込み・問い合わせ先：〒160 東京都新宿区新宿 3-17-7 (紀伊国屋ビル5階)
慶応工学会内 プログラミング・シンポジウム委員会
電話 (03) 352-3609